

第 12 回日本小児在宅医療支援研究会に向けて

第 12 回日本小児在宅医療研究会学術集会の会長を務めます埼玉医科大学総合医療センター小児科森脇と申します。2019 年の第 9 回に引き続き、4 年ぶり 2 回目の大役となります。

新生児集中治療室長期入院児対策として始まった当センターにおける小児在宅医療の取り組みも既に約 15 年続いております。その間、小児在宅医療および医療的ケア児を取り巻く環境は大きく変わってきました。この 2 年でも、いわゆる医療的ケア児支援法の制定・施行、医療的ケア児支援センターの各都道府県における開設、こども家庭庁の設置と大きな出来事が続いております。

そこで今回は「インクルーシブな社会を目指して 医療的ケア児支援の未来」をテーマとし、またシンポジウムで医療的ケア児支援センターを取り上げることにしました。各地での先進的な取り組みを紹介して、参加者の地域での取り組みに活かしていただければと思っております。そのほか、これまであまり取り上げてこなかった在宅における緩和ケアについても取り上げていきたいと思っております。もちろん、これまでも取り組んできた多職種連携、医療的ケア児の教育、災害対策などについても演題を募集したいと思っております。

また、昨年はおおぞら診療所の前田先生に国際シンポジウムを企画していただき、勇美記念財団の御援助もあって、初めて海外の演者にも講演をしていただきました。今年も引き続き国際的な企画を予定しております。

これまでの取り組みで小児在宅医療・医療的ケア児に関わるネットワークは広がりつつあると思っております。そして個々の課題・取り組みが今後ますます発展することを期待しており、この学術集会がその一助になればと思っております。日本中の在宅の医療的ケア児とご家族が安心して過ごせる環境が整備されるよう活動を続けていきますので、今後とも皆様にご指導・ご鞭撻いただければと思っております。

令和 5 年 4 月

埼玉医科大学総合医療センター小児科 教授
森脇 浩一